

中国と日本を結ぶ季刊誌

かけはし

季刊 2017年春号
2017年4月20日発行(第2巻第1号)

2017年 中日国交正常化45周年特別企画

中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時

CRIさくら便り
中国各地で桜満開!

お詫びと訂正

本誌『かけはし』2017年春号のP. 27「中日交流カフェ」ページ下部「※現在の番組表」の内容に一部誤りがありました。

お詫びするとともに、以下に詳細な番組表を掲載し訂正します。

中国国際放送局日本語部 かけはし編集部

CRI日本語放送 週間番組表（2017年4月20日現在）

曜日 日本時間	日	月	火	水	木	金	土
7:00	前日の19：00から20：00までの番組の再放送						
8:00	前日の20：00から21：00までの番組の再放送						
9:00							
19:00	ニュース						
19:10	歌で中国語 を学ぶ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ
19:20	ハイウェイ北京～CRI中国情報ラジオ～①						
	週末特集 (日曜編)	ライフ・ マガジン 中日カル チャー	チャイナ・エクスプレス			中国の旅 DX	週末特集 (土曜編)
20:00	ニュース						
20:10	歌で中国語 を学ぶ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ
20:20	ハイウェイ北京～CRI中国情報ラジオ～②						
	週末特集 (日曜編)	チャイナ・ シアター	CRI インタ ビュー	中日交流 カフェ	文化・ マガジン 中国暦 56の 民族56の花	中国の旅 DX+	週末特集 (土曜編)
21:00	ニュース						
21:10	歌で中国語 を学ぶ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ	文法ノート	日本で実践 中国語	キーワード チャイナ
21:20	ハイウェイ北京～CRI中国情報ラジオ～③（再放送）						
	週末特集 (日曜編)	中国の旅 DX+	チャイナ・ シアター	CRI インタ ビュー	中日交流 カフェ	文化・ マガジン 中国暦 56の 民族56の花	週末特集 (土曜編)
22:00	19：00から20：00までの番組と同一構成						
23:00	20：00から21：00までの番組と同一構成						
0:00	21：00から22：00までの番組と同一構成						
1:00							

- ・ 全て日本時間で記載しています。
- ・ 番組はCRI公式サイト (<http://japanese.cri.cn/>) でもお聴きいただけます。

かけはし

季刊 2017年春号
2017年4月20日発行(第2巻第1号)

目次

お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中国国際放送局日本語部「かけはし」編集部

- 02 中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時
——中華人民共和国と日本、本格外交のスタート

……王小燕

- 04 李陽記者の挑戦
两会議取材2017

……李陽

- 06 北京暮らし
北京の町巡り「魯谷」

……劉勸琳

- 07 世界無形文化遺産めぐり
南京の雲錦

……任春生

- 08 百家姓物語
「花」

……張怡康

- 09 日本で実践!中国語
日本の旅館での会話

……張怡康・梅田謙

- 10 漢詩歳時記
「田園楽」 王維

……王洋・高橋恵子

- 12 【特集】CRIさくら便り 中国各地で桜満開!

【北京】玉淵潭公園のさくら物語 ……王小燕
江蘇省無錫市の桜祭り 中日友好の願いを託す ……周莉
CRIさくら園 2017年も開花!
全国からの投稿

- 16 話 はなし 嘶 HANASHI ……李順然
♪は一るよこい

- 18 新語で知る中国事情 ……謝東
キーワードチャイナ

- 20 イチオシ中国映画・中国音楽 ……関亦氷
映画編: 西遊・伏妖篇など 音楽編: 20/動力火車など

- 22 日本人スタッフのつぶやき ……星和明
中国の新自転車時代〜シェア自転車生活始まる〜

- 24 CRIインタビュー ……王小燕
松竹大歌舞伎 10年ぶりの北京公演

- 26 中日交流カフェ ……高橋恵子
ラジオが繋ぐ交流の輪

- 28 リスナーからのお便り
編集後記



表紙の写真

春、後海近くの胡同。
春のピクニック「踏青」
は北京でも定番。胡同
(フートン)でのサイク
リングが今時の流行
だ。

(撮影: 劉勸)

「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 趙雲莎

編集 梅田謙

潘 圓

王 帥

かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中国国際放送局日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn

2017年 中日国交正常化45周年特別企画

中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時

■王穎穎 中国国際放送局日本語部副部長

中日国交正常化45周年という大きな節目にあたる今年、CRI日本語放送ではその特別企画として、「国交正常化45年の歩み——あの日、その時」を2017年1月から毎週土曜日に放送しています。

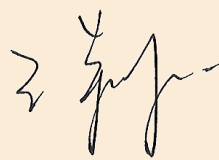
番組のオープニングに用いられている周恩来首相と田中角栄首相の肉声を聞けば、45年前のあの秋を想起することでしょう。当時、国交正常化を迎えるために尽力した双方の努力、そして国交正常化が実現した後の交流や往来など、中国と日本にはたくさんの思い出があります。今回のこのシリーズ番組では、その長い歴史の中からCRI日本語放送らしい視点でピックアップした出来事を、みなさんと一緒に分かち合います。

第1回「井戸掘り」と第2回「卓球外交」では、国交正常化に至る背景や国際環境の変化を紹介し、第3回と第4回では1972年9月の国交正常化交渉の5日間にフォーカスしました。その後は月替わりのテーマに沿ってお届けしています。

番組の放送開始直後から、リスナーの皆様からのたくさんの応援のお便りを頂きました。この反響を受けて、当シリーズは今後、中国国内のSNSにおいても両国語で発信していく予定です。

本誌『かけはし』では放送の一部を抜粋して掲載します。ぜひ、本放送もお聞きください。過去の放送はCRI日本語放送のホームページでもお聞きいただけます。引き続きよろしくお願いします。

3月に行われた松竹大歌舞伎の北京公演をはじめ、今年は国交正常化45周年を記念するたくさんのイベントが予定されています。これからの全てがきっと、中日両国の「あの日、その時」になっていくことでしょう。



■王穎穎(おう えいえい)

2001年入局。

2005年から2007年まで、日本駐在特派記者として東京勤務。

帰国後、ニュースアナのほか、レギュラー番組：音楽網駅、ミュージックエアライン、歌で中国語を学ぶ、中国の旅、スポーツ中国、ビジネス最前線、ハイウェイ北京(火曜、木曜)などを担当。2013年中国新聞賞、2014年ゴールデンマイク賞人物賞を受賞。2014年副部長に就任。

中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時

第一回

——中華人民共和国と日本、本格外交のスタート

■王小燕

中日両国は1972年秋の関係正常化の実現を受け、翌73年の初め、大使館の設置と大使の交換を実現し、本格的な外交関係が始まりました。その前後の動きや初代大使の横顔を振り返ります。なお、この文章は、CRI日本向けラジオで2017年1月から、毎週土曜日放送の「中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時」の抜粋です。

■フラッシュバック あの日、その時

- 1972年9月 「中日共同声明」発表
第4条で相手国首都での大使館設置及び大使の交換を取り決める
- 1973年1月 林佑一日本国臨時代理大使が北京入り
米国鈞中国臨時代理大使ら11人が東京入り
- 1月11日 在中国日本国大使館開設
- 2月1日 中国駐日本国大使館開設
- 3月27日 陳楚初代中国大使が東京に到着
- 3月31日 小川平四郎初代日本大使が北京に到着



1972年9月28日、北京で乾杯をする
周恩来首相と田中角栄首相

■陳楚大使、政府特別機で東京赴任

1973年3月27日午後3時35分。上海からの中国政府特別機が羽田空港に到着した。陳楚初代駐日大使と夫人・洪蘭一等書記官のほか、駐日大使館員12人、中国科技代表团11人が乗っていた。

中日間の往来は香港を経由し、2日ほどはかかる時代である。政府専用機で大使一行を東京に送り届けることは、中国政府の決断だった。中日航空協定の話し合いがすでに始まっており、その一ヶ月前に、中国の旅客機による上海—羽田テスト飛行が行われたばかり。陳大使一行を乗せた特別機は、初めて中国側から直行の本格飛行を行ったもので、中日外交に臨む中国側の意欲的姿勢の表れとして日本から高く評価されていた。

空港周辺はセキュリティ強化のため、ものしい警備体制であった。日本外務省儀典長をはじめ、政府関係者や諸外国の日本駐在代表ら大勢の出迎えの中、中華人民共和国初代駐日大使一行が日本の土を踏んだ。

陳楚氏(1917 - 1999)は山東生まれ。いくつもの新聞社で編集長、社長を歴任。新中国成立後、広報担当の次官としても活躍していた。東京への赴任前は、中国が合法的権利を取り戻したばかりの国連で、中国副代表を務めていた。1976年12月まで、陳大使は3年8ヶ月にわたって東京に駐在した。時期的には、日本では第1次オイルショック、中国では文化大革命がまだ続いていた。激動の時代ではあったが、在任中、宮沢喜一外務大臣との間で『中日漁業協定』(1975年)を結ぶなど、着実な外交成果を实らせた。

任期満了後、陳氏は、中国の国連駐在大使として活躍し、定年退職後も中日友好活動に尽力。1992年に日本政府から勲一等瑞宝章が授与された。

1999年、陳大使は北京でその生涯の幕を閉じた。息子の陳小工氏は中国人民解放軍空軍元副司令員として、中日民間対話の場「東京—北京フォーラム」でパネラーを務めるなど、オピニオンリーダーと

して中日関係の健全な発展に強い関心を寄せ続けている。中日の友好交流を願う思いは、親から子の世代へと受け継がれている。



1973年4月5日、裕仁天皇に信任状を手渡すため、皇居を訪れる陳楚大使



1973年4月8日、周恩来首相と北京で会談する小川平四郎大使

■「売り込みだけでなく、中国文化も学びたい」小川平四郎大使

一方、初代日本大使の職に白羽の矢が立ったのは56歳のベテラン外交官・小川平四郎(1916-1997)で、後に首相となる宮沢喜一代議士の叔父である。

小川氏は1938年、外交官試験に合格。翌1939-1941年、外務省在外研究員として、北京のカトリック系大学・輔仁大学文学部に留学。北京に赴任するまでに、香港総領事、アジア局長、デンマーク大使などを歴任。

父親の平吉は元鉄道大臣で、中国の革命家・孫文らと親交があった。任命を受け、まわりから上がった祝福の声に対して、小川氏は「実のところ重苦しい気持ちのほう強い。日中国交正常化という大仕事を受けて、その先の道をつけていくわけですから……。とにかく誠心誠意でやります」とメディアに心境を打ち明けたことがある。

1973年3月29日、田中角栄首相の親書を携え、小川大使一行6人が羽田発の日航機で香港経由、中国への赴任の途についた。空港で見送った人群れの中には、その2日前に着任したばかりの陳楚大使と肖向前参事官らの姿もあった。

温和、謙虚、フレンドリー。これが、当時、日本大使館勤務の中国人スタッフの印象に残った小川大使だった。1973年から12年間日本大使館で働いていた任兆文さんによると、「小川大使は、日本の侵略戦争に

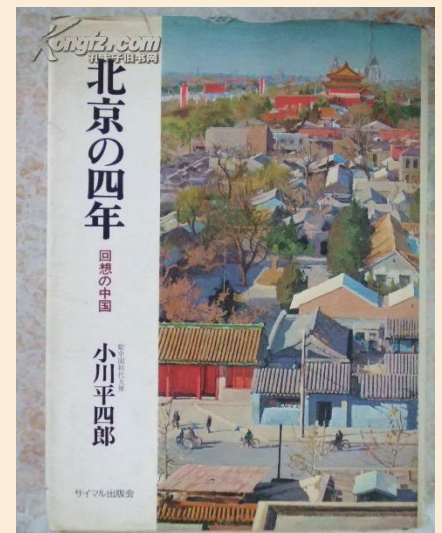
ついて何度も謝罪していたことを覚えている。中国語が話せたので、中国人とも積極的に交流し、たいへん気さくな方だった」。

こうした印象を裏付けるように、小川氏は赴任前に、「朝日新聞」のインタビューで次のように語っていた。

「(これからの対中国、対アジア外交について)日本の文化を売り込むだけでなく、中国の文化を学ぶ面も重視したい…アジアの平和、繁栄は日本ばかりでなく、中国も絡んでいます。そのために、両国が協力できることがあれば、積極的にやるべきです…日中間の緊密な関係が、アジアにとって脅威でも不安でもないことを実績で示し、説明していくべきです。とにかく、先入観を捨てて、中国を知りたいし、また率直に日本を理解してもらおう努力したい」

小川氏は1977年まで中国大使を務める。後に、『北京の四年 回想の中国』と題した回顧録をサイマル出版会から出版。

在任中、中日航空協定の締結交渉などにあたり、のちに、日中協会副会長としても活躍した。



特別企画

「中日国交正常化45年の歩み

——あの日、その時」

2017年1月から毎週土曜日

19:20～19:30に放送中

再放送:20:20～21:30

21:20～21:30

22:20～22:30

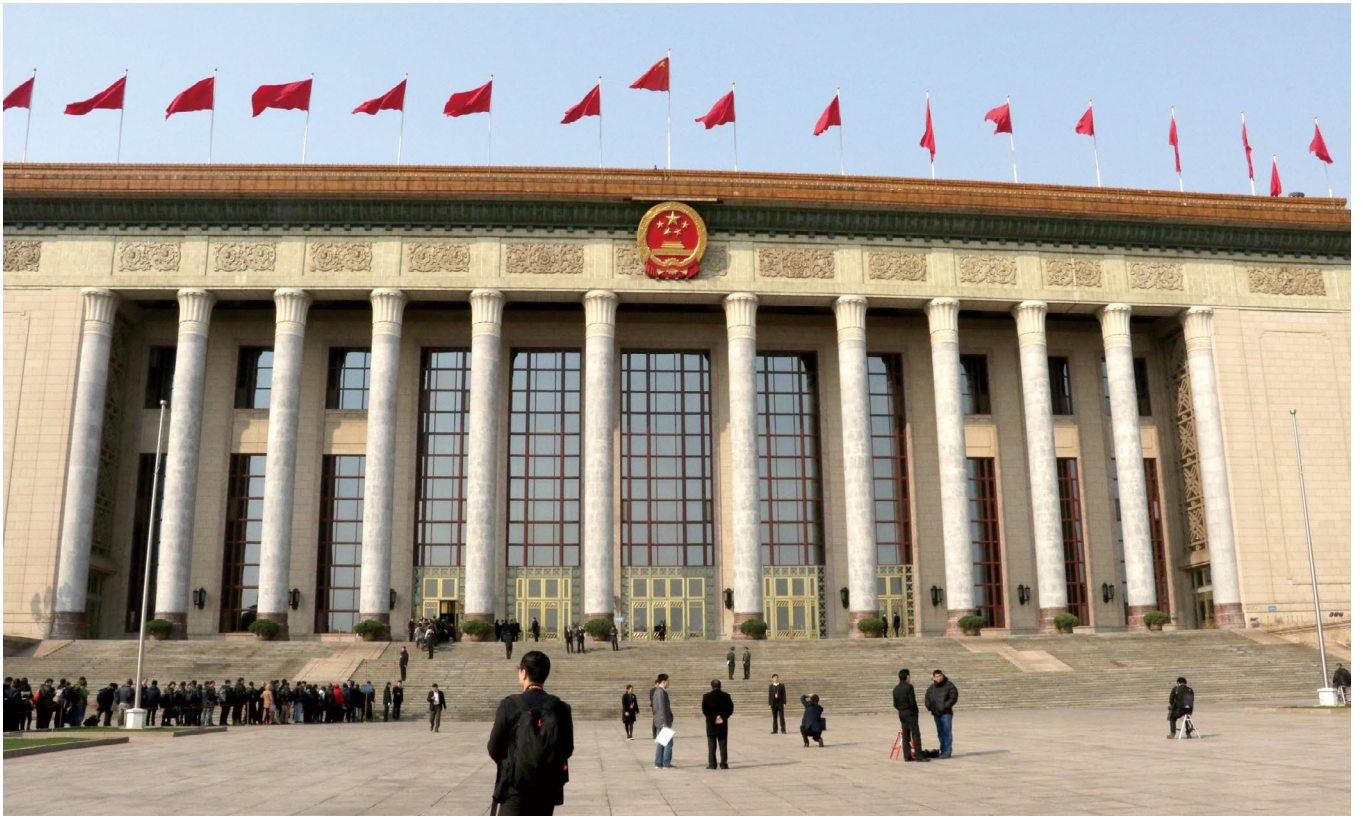
23:20～23:30

24:20～24:30

翌日7:20～7:30

8:20～8:30(全て日本時間)

CRI公式サイト「ネットラジオ」からもお聞きいただけます。



李陽記者の挑戦!

両会議取材2017

両会議とは?

中国で毎年3月初めに行われる「両会議」。これは「全国人民代表大会(全人代)」と「中国人民政治協商會議(政協)」という2つの会議の総称です。全国人民代表大会は全国から選出された代表で構成される、国家の最高権力機関です。また、中国人民政治協商會議は中国で最高位の協商諮問機関とされ、民主党派と呼ばれる8つの政党(中国国民党革命委員会、中国民主同盟、中国民主建国会、中国民主促進会、中国農工民主党、中国致公党、九三学社、台湾民主自治同盟)や、人民団体、各民族および各界の人々が政治に参加し、協力し合うための重要な場です。2017年は、大気汚染対策、税収政策、医療改革などが注目の議題でした。

CRI公式サイトで両会議特集を配信中!

今年の両会議に、CRI日本語部からは李陽記者が取材に赴きました。その取材記事のほか、両会議をより深く知るためのニュースや図解などが、CRI公式サイト(<http://japanese.cri.cn/>)の特集コーナーでご覧いただけます。

本誌『かけはし』では、記者の所感をお届けします。中国で最も注目を集める2つの会議の現場に実際に足を踏み入れた李陽記者の言葉を通せば、中国の政治をより身近に感じられることでしょう。



再び両会議記者になって

■李陽(り・よう)



皆さん、こんにちは!今年の両会議の取材記者を務めた李陽です。担当するのは2回目でしたが、中国国民の生活に密接にかかわる重要な大会の取材に携われるということで、今回も興奮を覚えるとともに、強い責任を感じて臨みました。

今年注目の話題は、環境保護、貧困扶助事業、思想文化の建設など。私が特に関心を持ったのは、やはり環境保護についてです。北京は中国でも大気汚染が深刻な地域の一つです。状況は年を追うごとに改善が進んでいますが、スモッグは毎年のように発生しています。今回、大気汚染問題に関するシリーズ記事を執筆するため、陳吉寧環境保護相による記者会見、北京市代表团全体会議、環境保護を専門とする全人代代表などを取材し、大気汚染が形成される原因や、その解決方法、国家の政策などについて報道をすることができまし

た。北京で青空が毎日見られるように、記者として貢献したいという一心で取り組みました。

今回の取材で最も嬉しかったのは、予定外であった程永華駐日大使の独占インタビューが実現したことです。程大使は政治協商會議の委員として北京に滞在していましたが、そのスケジュールは読めませんでした。しかし、中日関係について話を伺いたいという思いが通じたのか、幸運にもご本人とお会いする機会に恵まれ、インタビューの主旨を聞いた程大使は、二つ返事でこれを引き受けてくれました。程大使は中国語に流暢な日本語を交えて、中日関係や国交正常化45周年の記念イベントの予定などについて、一つひとつ丁寧に語ってくれました(インタビューの内容は、ぜひCRI公式サイトでご覧くださいね!)

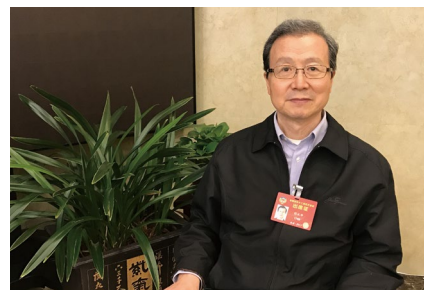
ところで、今回一番感心したのが、取材エリアの利便性がますます向上していたことです。人民大会堂の北側のロビーには、國務院の政府高官らが必ず通る通路があります。記者たちは常にこの周辺に待ち構え、そこを通る政府関係者を囲んで質問を投げかける「ぶら下がり取材」を行うのです。2008年からここにぶら下がりが取材エリアが設けられました。今年はこのエリアがさらにオープンになり、その上、実に現代的な変化が起きました。会議の主催側がSNS「微信(WeChat)」のパ

ブリックアカウントを開設したのです。記者たちは手元のスマホでQRコードを読み取ることで、このアカウントをフォロー(登録)することができ、これを通して質問を提出できるようになります。政府と記者との間に新しい関係が築かれつつあることを実感しました。

初めて両会議の記者を担当したのは2013年でした。2度目の今回は、より努力し、より真摯に、少しでも成長して取り組むことができたと自負しています。全体大会、グループ別の全体会議、各記者会見、全人代表や政協委員など、多くのインタビューをすることができました。心残りなのは、映像を使った報道が足りなかったことです。ショートムービーによって会議の様子を紹介することを試みたのですが、個人的にはもっと多くの本数を揃えたかったです(それでも4本制作することができました。CRI公式サイトでご視聴いただけると嬉しいです)。時代の流れに合わせて取材の形式だけでなく、主催側の情報開示の方式も変化していることが印象的だった今回の両会議で、考えさせられることがたくさんありました。今後の取材では今回の経験を生かし、新しいやり方を取り入れて、時代に求められる報道ができるよう、引き続き頑張っていきたいと思います。これからもCRIの取材記事をよろしくお願いいたします!



1.北京市代表团全体会議 2.程永華駐日大使 3.主催側が開設したSNS「微信(WeChat)」のバブルアカウントのQRコード





北京暮らし～北京の町巡り「魯谷」～

■劉叡琳

シリーズコラム「北京暮らし」では、観光ガイドブックには載らない市民の生活エリアに着目してご紹介します。

中国の首都、北京の面積は1万6800平方キロで、日本の四国4県とほぼ同じ大きさ、東京都のおよそ8倍にあたります。16の区と2つの県からなり、人口は2016年末の時点で2172万9千人に達したということです。

では、この広い北京の町で、住みやすい生活エリアや住宅団地はどこなところでしょうか。今回は「魯谷」という町についてご紹介します。

「魯谷」は北京市の西にある石景山区の東南部、有名な墓地「八宝山」の南に位置するエリアです。CRI・中国国際放送局もこのエリアにあります。

魯谷という町は、遼の時代にできたもので、1千年以上の歴史があります。昔、この辺りは「魯谷村」といい、皇室の葬儀場である「八宝山」に近いので、この村人たちは墓守りを務めていたということです。その静かな墓守りの町が、今のよう大きな住宅団地として生まれ変わったのは1987年からで、この年に敷地面積21万平方メートルを誇る石景山区内で当時最大の住宅団地、「魯谷小区(団地)」が建設されました。その後、「永楽団地」や「遠洋山水」、「沁山水」など、北京市でも有名な住宅団地が相次いで建設され、国際彫刻公園などの市民公園も整い、162ヘクタールの緑地を誇る住みやすい住宅エリアに一新されました。

この周辺には、CRIの放送局のほかにも、北京市中級人民法院(北京地裁)、検察院、眼科病院などの公的機関がありますが、商業施設は市内の東部や中部ほど賑わっておらず、夜遊びが好きな方にとっては、ちょっと寂しいかもしれません。一方で、1人辺りの緑化面積はなんと74平方メートルもあり、健康的で安らぎのある生活空間として徐々に人気が高まっているエリアでもあります。アクセスは、地下鉄1号線の「八宝山駅」を降りてすぐです。



■劉叡琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。

世界無形文化遺産 南京の雲錦

■任春生

江蘇省の省都・南京は、古くから絹や錦などシルク製品の都として栄えました。それは、この地に南北朝時代(420-589年)に北方の中原地域から多くの優れた絹織り職人が移住してきたことにより、「雲錦」と呼ばれる絹織物が誕生したからです。その独特の色彩は絹糸だけではなく、純金の糸や、孔雀の羽から作った糸など、珍しく貴重な素材によって作り出されています。南京の雲錦は、元、明、清の3つの時代(13世紀初～20世紀初)にわたり、皇室の御用達品に指定されました。

清代には、南京に「江寧織造局」が置かれ、南京城一帯には雲錦で生計を立てる人が約30万人となり、南京最大の手工業となりました。この織造局での生活を題材にした作品が、中国四大小説の1つ「紅樓夢」です。そして2009年に、雲錦の製作技



術はユネスコの「世界無形文化遺産」に登録されました。

雲錦を織るには「大花楼」と呼ばれる綾織機を用います。上下2人で息を合わせて縦糸と横糸を操り織り上げていきます。上の人は、大量の白い糸からいくつかを選び、糸を引っ張り上げます。下の人は、「織手」と呼ばれ、上の人が引っ張り上げた縦糸に横糸を通します。こうすることで、横1列に10種類近くの糸を編み込み、複雑な色合いと模様を生むことができるのです。操作には相当の技術が必要で、図案も大変複雑なため、熟練の職人でも1日にわずか5、6センチしか織ることが出来ません。皇帝のガウン1着に2年以上かかり、「錦一寸金一寸」と言われました。

図案やデザインにも雲錦独特の魅力があります。伝統的な図柄に、「龍」の模様が多く使われた「雲錦方龍補子」というものがあります。龍はあらゆる獣の中で一番高い位にあり、威風堂々としたその姿は威厳や権力の象徴として、皇帝がもつ最高権力に最もふさわしい図案とされます。一方、美しく賢い女性の象徴として、皇后の召し物には「鳳凰」が使用されていました。このほか、雲錦のデザインには多くの吉祥慶事の模様が使われています。例えば、桃は長寿を、仏手柑は福を、ザクロは子宝に恵まれるように、魚の図柄は生活にゆとりがあるように、という願いを表現しています。

中国織物工芸史の宝とも称される南京の雲錦ですが、これをいかに次の時代に伝えていくかが課題になっています。熟練

の織り手を育てるには長い年月が必要ですが、これに興味を持ち学ぶ人が少ないのです。

現在、雲錦は主に重要文化財の織物の複製や、高級服飾・アクセサリーの製作に使われており、国内向けのものより、輸出用の商品が多いのが実態です。この状況を打破し、より多くの人に身に着けてもらうために近年、若者向けの商品開発も進めています。代表的な事例として、国内の有名女優、范冰冰(ファン・ビンビン)が2010年のカンヌ映画祭の開幕式で、雲錦のチャイナドレスを着ました。このことで、その美しさと存在が世界に知られました。

また、世界無形文化遺産に登録された雲錦を保護し、その魅力を伝えるため、2004年には南京雲錦博物館がオープンしています。皆さん、南京にお越しの際は、是非、この南京博物館にもお出かけください。



■任春生

(にん・しゅんせい)

2003年入局。

中国の世界遺産巡り、中国の世界無形文化遺産巡りなどのシリーズ番組を担当、中国の歴史と文化を紹介。現在は番組「中国の旅・デラックス」を担当。

江蘇省塩城市出身。南京農業大学日本語科卒、北京外国語大学日本学研究センター修了。

中国の苗字を知る

百家姓物語

■張怡康

書籍『百家姓』は、子供らに漢字を教えるために馴染みのある姓を504集めた学習書の1つで、北宋(960～1127年)の初めころに成立したとされます(諸説あり)。「趙錢孫李周呉鄭王・・・」とリズムカルにはじまり、中国の代表的な姓が記されています。

このコーナーでは、『百家姓』から取り上げた中国の苗字を紹介します。



花(huā)

使用人口:18万 人口ランキング:285位

春と言えばお花!今回は季節に合わせた「花」姓にまつわる内容です。

花という苗字のもっとも有名な由来には、まず「音の変化」が挙げられます。中国で最も古い部首別漢字字典『説文解字』によりますと、北朝時代(439年)以前にはまだ「花(huā)」という字が存在しなかったそうです。その代わりに「華(huá)」の字があり、「華」を苗字とする人々もいました。そして、唐の時代の少し前には「花」という字も作られ、花と華の発音が似ていることから、苗字を「華」から「花」に変える人が一部現れたのだそうです。

次の由来は、海外からです。同じく唐の

時代に、ブルネイ、そして古代インドネシアの小さな国「訶陵(かりょう)」からそれぞれ来たとされています。ブルネイからは、紀元616年に中国を訪れた遣唐使がそのまま中国に残り、「花」姓を名乗るようになったそうです。その理由をはっきりとは分かっていません。一方で、「訶陵国」から中国を訪れ、そのまま残った人たちは「訶・诃(hē)」の発音が「花」と似ていることを理由に、「花」を苗字にしたそうです。外国から来た彼らの子孫は、現在は福建省と海南省あたりに多く暮らしています。ちなみに、福建省の一部地域の方言では、花と訶の発音が本当にそっくりです。

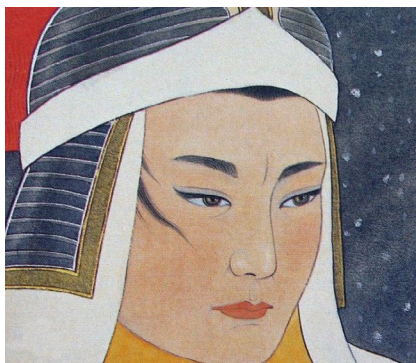
もう一つ、よく言われる由来は少数民族からです。女真族、満族、モンゴル族、回族とタイ族といった少数民族には、多くの「花」姓の人々がいます。なぜ、多くの少数民族が「花」を苗字に使うのか、具体的に記述は無いのですが、女真族の場合はその昔、范用吉という有名な武將がいて、苗字が上司と同じであったことから「花」姓を賜り、その後世も「花」の苗字を名乗ったという話があります。また、タイ族では生活習慣と服装の違いによって、水タイ族、旱タイ族、花腰タイ族といった支系に分けられていますが、服装が華やかな花腰タイ族の人々は、「花」苗字をよく使います。

「花」苗字の有名人——花木蘭

日本では、ディズニー映画「ムーラン」として知られています。

映画では、病を患った父親の代わりに男装して従軍し、訓練で失敗したり、周囲に意地悪されたりしながらも努力し続け、最終的に立派な戦士に成長するムーランの一生が描かれました。

ムーランは実在の人物ではないですが、中国の歴史にはムーランのような女性や、この物語のような出来事が何度か登場します。その親思いでたくましい少女たちを記念するため「花木蘭」の物語が作られました。北朝の民謡「木蘭辞」で歌われ



たのが最初とされ、その後、「花木蘭」を題材とする舞台劇や映画が作られていきました。



■張怡康

(ちょう・いーかん)

2014年入局。初めて日本語に触れたのは1997年。日本語部では主にラジオ番組、SNSプラットフォームの管理、映像番組(ネット)を担当。中国語講座番組「日本で実践!中国語」では、「日本で中国人と出会った時に使える中国語」をお届けしています。

遼寧省出身。北京第二外国語学院日本語同時通訳専攻卒、ニューヨーク大学大学院修了。

日本で実践!中国語

かけはし出張版 日本の旅館での会話

この講座番組では、日本で中国人と出会ったとき、どんな風に中国語で会話すれば良いかを一緒に勉強しています。

中国では4月の「清明節」や5月の「労働節ゴールデンウィーク」など、連休の時期が控えています。日本を訪れる中国人観光客の数もだんだんと増えることが予想されますね。日本での宿泊先に、温泉旅館を選ぶ中国人も増えてきているということです。旅館に泊まりに来た中国人とのコミュニケーションに役立つ中国語を、一緒に見てみましょう。

「日本で実践!中国語」の第19課の内容を抜粋してお届けします。

会話

Diànyuán: Zhè shì nín de fángjiān. Qǐng bǎ xié tuō zài zhèlǐ.
店員: これは您的房間。请把鞋脱在这里。

Gùkè: Hǎode.
顧客: 好的。

Diànyuán: Wǎncān shì rìshì tàocān,
店員: 晚餐是日式套餐,
nín xīwàng liù diǎn bàn hái shì qī diǎn kāishǐ yòngcān?
您希望6点半还是7点开始用餐?

Gùkè: Nà, liù diǎn bàn ba?
顧客: 那, 6点半吧?

Diànyuán: Hǎode, yòngcān dìdiǎn shì yīlóu cāntīng.
店員: 好的, 用餐地点是一楼餐厅。

Gùkè: Xièxie.
顧客: 谢谢。

訳文

案内係: お部屋はこちらです。履物はこちらでお脱ぎください。

お客さん: 分かりました。

案内係: 夕食は、和食のコース料理です。6時半と7時のどちらのお時間がよろしいですか。

お客さん: じゃあ、6時半で。

案内係: かしこまりました。夕食会場は1階のレストランです。

お客さん: ありがとうございます。

構文: 把

★目的語に対して処置を加えたり、何らかの結果を生じさせる。

★主語+「把」+目的語+動詞+その他の成分

ちょういーかん
張 怡康



「いつかお猿さんと一緒に温泉に入りたい!」

うめだ けん
梅田 謙



「中国の温泉にも行ってみたいなあ〜」

単語

xié	靴
wǎncān	夕食
kāishǐ	開始・始める
dìdiǎn	場所
wǔcān	昼食
tuō	脱ぐ
rìshì	日本式
yòngcān	食事をする
cāntīng	レストラン
zǎocān	朝食
xīcān	洋食

「日本で実践!中国語」は以下の方法でお聴きいただけます。

- ★Podcast iTunesや対応アプリで「中国語」「日本で実践」を検索。
- ★CRIラジオ 毎週火曜日と金曜日に好評放送中!
- ★Webサイト CRI公式サイトの「中国語教室」コーナーへお進みください。
URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/15home/hanyu.htm>



漢詩歳時記

■王洋・高橋恵子



□作品原文と解釈

Tián yuán lè Wáng Wéi
《田 园 乐》 王 维

田園楽 王維

Táo hóng fù hán sù yǔ
桃 红 复 含 宿 雨
Liǔ lǜ gèng dài chūn yān
柳 绿 更 带 春 烟
Huā luò jiā tóng wèi sǎo
花 落 家 童 未 扫
Yīng tí shān kè yóu mián
莺 啼 山 客 犹 眠

もも くれな い ま しゅくう ふく
桃 は 紅 に し て 復 た 宿 雨 を 含 み
やなぎ みどり さ ら しゅんえん お
柳 は 緑 に し て 更 に 春 煙 を 帯 ぶ
は なお か どう い ま は
花 落 ち て 家 童 未 だ 掃 ら わ ず
うぐいす な さんきやく な ねむ
鶯 啼 い て 山 客 猶 お 眠 る

桃の花は夕べからの雨を含んでより紅の色が鮮やか。柳は緑を増して春の霏がかかっている。庭に落ちた花はそのままにして召使に掃かせたりしない。鶯が鳴く声が聞こえるけど、私はまだ夢の中。

音声は <http://japanese.cri.cn/2066/2015/06/11/181s237532.htm> へ



□作者紹介

王維(おう・い)は盛唐の詩人。画家で現在の山西省太原の人。役人でもあった王維は、「半官半隠」、宮使いの合間に郊外にある山荘で悠々自適の生活を楽しんだようです。詩の中の「山客」と言うのは山荘の主のことで、王維自身を指すのでしょう。

自然を謳歌する五言絶句に優れた人ですが、今日紹介した詩は五言ではなく六言。六文字で一句に成っている珍しいものです。桃と柳、紅と緑、雨と靄、花と鶯、童と客、きれいに対句になっています。そのせいか、五言や七言よりもリズムを感じます。仏教に帰依した王維ですが、阿倍仲麻呂や孟浩然とも親交がありました。そういえば、この詩「田園楽」の情景は孟浩然の「春眠暁を覚えず」の詩と同じです。夜に雨が降り、その雨で花が落ちる。鳥が鳴いて朝が来る。地面に落ちた花びらを慌てて掃き清めるのではなく放っておく。そんな光景を思い浮かべながら自分は春のまどろみの中。才能ある友人同士が、同じ景色をそれぞれ詩にして、それが後世に伝えられていく。王維も孟浩然も素敵な春を愉しんだんですね。

■高橋恵子(たかはし・けいこ)



学生時代からアナウンサーの仕事始めて早35年。
日本語部で働くのは93年～95年に続いて2回目です。
この番組「漢詩歳時記」は2013年から始まり気が付けばもう4年です。歳時記のタイトルにふさわしい漢詩をみつけると「やったあ!」嬉しくなります。高校時代ちんぷんかんぷんだった漢詩も今読むと「そうだよな」と共感したり、情景が目に見えたり。歳とるって、いいですね。

■王洋(おう・よう)



2005年入局。2010年2月～2014年7月まで東京支局勤務、現在はニュースキャスターのほか、毎週水曜日の「中日交流カフェ」番組を担当。電波で結ばれた人と人との絆、新たに広がりつつある友情の輪、「草の根」の交流の第一線で活躍している人々の声に耳を傾けます。
北京市出身。北京第二外国語大学日本語学部卒。

【特集】CRIさくら便り 中国各地で桜満開!

日本を代表する花で、中日友好のシンボルでもある「桜」。今では、桜は中国でも春の風物詩になっています。しかし、一本一本の桜が花を咲かせるその陰には、一生懸命にそれを育ててきた人々の思いと努力があります。

「CRIさくら便り」は、両国の春を彩る桜と人々の思いにフォーカスする、リスナー／ネットユーザー投稿型企画として2014年春にスタート。これまで3年続けて実施し、今では春の定例企画になっています。今回の特集では、当コーナーで取り上げてきたものを中心に、「中国に咲く桜」を4ページにわたってご紹介します。

【北京】玉淵潭公園のさくら物語

■王小燕

■きっかけは中日国交正常化記念

北京一の桜名所という、まず挙がるのが玉淵潭公園です。ここには約20種類、2300本余りの桜の木があり、毎年開かれる桜祭りは北京の春の風物詩です。

この公園での桜の栽培の歴史は1973年に遡ります。前年秋の中日国交正常化を記念するため、当時の田中角栄首相が大山桜の苗木1200本を中国に寄贈しました。苗木は全国各地に分けられ、その中の180本が玉淵潭公園に。日本とは気候も土壌条件も異なる北京の地で桜を栽培し、美しい花を咲かせるようになるまでには、公園側の真摯な姿勢と何代にもわたるスタッフの努力の積み重ねがありました。

1989年に玉淵潭公園に「桜花園」ができ、その年から桜祭りが毎年開催されており、28回目の去年は、延べ200万人もの花見客が訪れたそうです。



■玉淵潭のさくら後見人・許曉波さん

今、園内で桜関連事業を主管するのは許曉波さん。1985年に大学の園芸学部を卒業。北京植物園での勤務を経て、1992年に玉淵潭公園緑化科に異動。園内の大山桜の生長状況の調査を行い、それを踏まえた上での管理方法の改善を提言しました。2000年に現職になり、ソメイヨシノの大量導入を主導して園内の景観作りに貢献。現在は育種、苗木栽培、管理、景観の改良や移植など、園内の桜関連業務を統括しています。



許さんは日本語が話せるわけではないのですが、「SOMEI YOSHINO(ソメイヨシノ)」、「YAE BENI SHIDARE(ヤエベニシダレ)」など、桜の品種名を日本語ですらすらと話されるのが印象的でした。桜を愛する先輩の思いを受け継ぎ、後進の育成にも力を入れています。許さんが手塩にかけて育てた後輩も園内で活躍しています。

■長老格の大山桜、いまは保護対象

ところで、1973年に植えられた最初の大山桜のその後は?——残念なことに、こぶ病や虫害にやられ、今では数本しか残っていません。公園側はその後日本との友人と桜の交流をしましたが、今は国内で育苗された品種が主力になっています。約1ヵ月続く桜祭りを盛り上げるため、早咲きから遅咲きまで、様々な品種を取り入れています。

もちろん「40年前からの」大山桜は今では重点保護対象で、普段は鉄柵に囲まれています。桜祭りが近づくと大山桜の柵は全て外されるのですが、その代わりに専用のロープが張られます。根っこの土が踏まれ過ぎると、樹木の寿命に影響するので、押し寄せる花見客から守るための配慮です。施肥にも砕いた枝の破片など有機肥料を使うなど、工夫を重ねています。

「玉淵潭公園の桜の歴史を知っている長老格の木ですよ。白っぽいソメイヨシノとは違う、野性的な力強さを思わせるピンク色の花びらが特徴です」

大山桜の枝を眺めながら、許さんは話しました。

■今の主役はソメイヨシノ

今の玉淵潭公園の桜は、6割がソメイヨシノで占められています。細長い湖面に「霞か雲か」のソメイヨシノが映え、幻想的な風景が広がります。

ところが、園内でのソメイヨシノの栽培歴はまだ16年ほどしかありません。鑑賞性に長けるソメイヨシノという品種の存在に、後になってようやく気づいたからだと言います。2001年頃には、山東省の苗圃が苗木を提供できると分かり、大規模なソメイヨシノの植樹が始まりました。

許さんによりますと、「ソメイヨシノ」は中国では当初、「日本桜花」と呼称されていたそうです。玉淵潭公園の努力の甲斐あり、今では「染井吉野」の名で知られるようになっています。

ちなみに、園内でソメイヨシノが集中的に植えられているエリアは、もともとは釣り堀でした。埋め立てられ、一面の芝生となり、2001年に植樹され、それから10年ほどで今日のような幻想的な風景が誕生したそうです。





1.「日中の未来を考える会」上海支部の皆さん
2.「日中共同建設桜友誼林保存協会」の新発田豊会長夫妻と「日本さくらの会」の皆さん

江蘇省無錫市の桜祭り 中日友好の願いを託す

■周莉

北京以外の桜をご紹介します。江蘇省上海市から蘇州市をまたいで西に100kmほどのところに位置する江蘇省無錫市。太湖に伸びた半島に鼋頭渚(げんとうしよ)公園があります。「鼋」とはスッポンのことで、スッポンが頭をもたげたような半島の形から、こう名づけられました。太湖沿岸を代表する景勝地のこの公園は、毎年3月下旬から4月上旬にかけて桜が満開になる、国内有数の花見の名所でもあります。

鼋頭渚での桜の植樹の歴史は1930年代に遡りますが、大規模に植えられるようになったのは1980年代後半のことです。坂本敬四郎氏と長谷川清巳氏が立ち上げた「日本友誼林建設実行委員会」が、無錫市での桜の植林を始めました。これまで30年間活動し続け、延べ1万6000人あまりの日本人ボランティアが無錫を訪れて、桜の植樹など各種の友好活動に参加してきました。現在の鼋頭渚公園にはすでに約3万本、100種近くの桜が植えられており、「桜バリー(桜の谷)」の規模は年々拡大しています。今や鼋頭渚は地元や周辺地域住民および在留邦人が花見をしながら交流を行う貴重な場にもなっています。

無錫市政府は今年、中日国交正常化45周年と「中日桜友誼林建設30周年」とともに記念すべき日として、3月27日から4月2日まで「2017無錫国際桜観賞ウィーク」及

び中日桜友誼林建設30周年記念活動」、日本風に言うと「桜祭り」を盛大に催しました。この「無錫国際桜観賞ウィーク」自体は2014年から毎年開催されているものです。

開幕式では植樹式が行われ、無錫市対外友好協会会長や、在上海日本国総領事、桜友誼林保存協会会長らが共に中日友好の願いを込めて桜の根元に土掛けをしました。

長谷川清巳氏の遺志を引き継ぎ、植樹を続けている「日中共同建設桜友誼林保存協会」の新発田豊会長は、「桜友誼林活動の提唱者である長谷川清巳前会長の想いである『二度と不幸な出来事が起きないように』、『日中友好』、『世界平和』の願いを桜に託し、子々孫々に伝えていくことが使命だ」と語りました。

会期中は、中日桜友誼林建設30周年記念式典のほか、記念石碑の除幕式や、遊覧船による水上花見、茶道体験、日本伝統音楽セミナーなど様々なイベントが開かれました。また「日本さくらの会」により選出された第9代日本さくらプリンセスが同地を訪れるなど、交流事業も盛んに行われています。

中日友好を願い、世界平和を願う中日両国の人々の想いが託された鼋頭渚の桜はこれからも毎年、綺麗な花を咲かせ続けていくことでしょう。



■周莉

(しゅう・り)

1998年入局。

ニュースデスクのほか、毎週木曜日の番組を担当。長年日本へ発信する第一線で積み上げたノウハウを生かして、聞き甲斐、読み甲斐のあるイキイキとした情報をお届けします！

CRIさくら園の桜 2017年も**開花!**

3月7日 つぼみ
0~9℃(晴れ)



3月15日 ふくらむつぼみ
1~15℃(くもり)



3月21日 開花目前
4~15℃(くもり)



3月22日 開花
6~15℃(くもり)



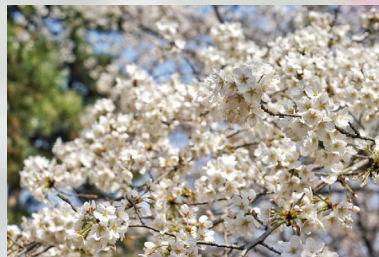
桜の季節がやってきた!

そろそろ咲きそう

3月31日
5~17℃(晴れ)



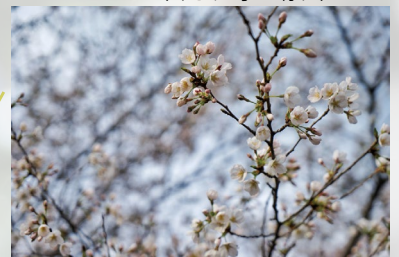
3月28日 8分咲き
3~16℃(晴れ時々くもり)



嬉しい枝に花が咲いたよ



3月25日 4分咲き
3~13℃(くもり時々晴れ)



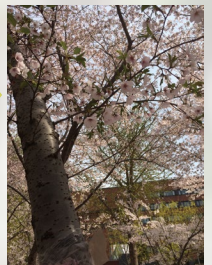
まさにお花見日和



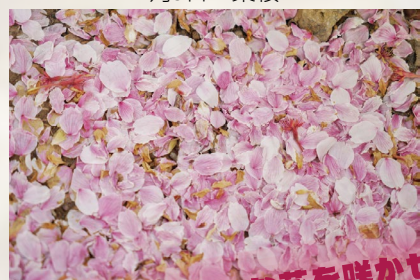
4月1日 満開
5~22℃(晴れ)



4月2日 散り始め
6~23℃(晴れ)



4月5日 葉桜



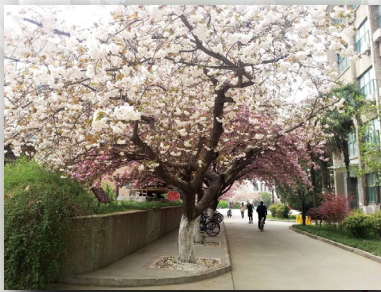
来年もきれいな花を咲かせてね

CRIの桜について

CRIの庭には20本の桜の木が植えられています。この花が咲くことが、放送局のスタッフはもちろん近隣の住民や通行人たちにとっても春の楽しみとなっています。これらの桜は、1996年5月4日、「長野県北京放送を聞く会」と「長野中国語を学ぶ会」から、CRIの新社屋への引越しを祝して寄贈されたものです。当時のリスナーたちが大事に抱えて北京まで運んで来た苗木も、21年の歳月を経て立派に成長し、桜で結ばれた両国の深い友情を多くの人に物語っています。

【全国からの投稿】

2017年に寄せられた、中国国内からのさくら便りをご紹介します。



陝西省西安市・西安交通大学
李国棟さん

北京市・北京日本学研究中心
撮影：郭連友さん



● 哈尔滨市 湖北省武汉市・武汉大学



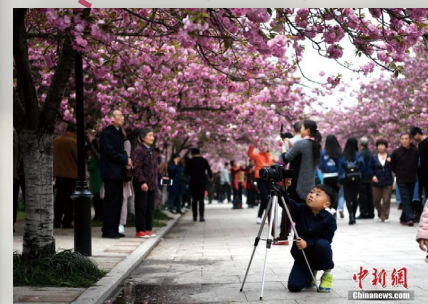
雲南省昆明市・円通山
撮影：鄧僑明さん



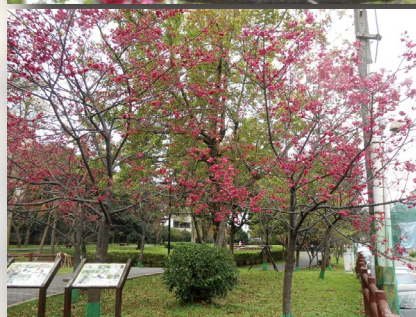
江蘇省無錫市・鼋頭渚公園
撮影：馬玥記者



安徽省合肥市
中国科学技術大学



福建省漳平市



台湾地区・中壢
撮影：劉守文さん

話 はなし HANASHI 嘸

■文 李順然 ■写真 薛移

♪は一るよこい※1

見あげれば枝先の春すでに十分
梅の香かふと足止める胡同※2かな

上の二句はいずれも宋代(960~1279年)の詩人戴益(たい・えき、生没年不詳)の「探春」を下敷きにした拙句です。春を探してあちこち歩いた戴益は、どこにも春の兆しを感じられず、肩を落として家路に着きます。家の近くまできてふと頭を挙げると、そこに枝先のふくらみを見つけ、やっと春に巡り逢いました。戴益は、この七言絶句の結句を「春在枝頭已十分」(春は枝先にありてすでに十分)と結んでいます。

川辺の春

わたしの家から6、7分の所を川が流れています。この川には、ちょっとした由緒があります。明代(1368~1644年)から清代(1636~1911年)にかけて、ここは都を守る護城河でした。清の末期に清王朝を牛耳っていた例の女傑西太后(1835~1908年)は、西の郊外にある御苑・頤和園(いわえん)に遊びに行くとき、わが家の近くの川岸に作らせた波止場から船に乗って出掛けたそうです。西太后、せま苦しい駕籠(かご)が大嫌いだったとのこと。ちなみに、昔も今もこの川は頤和園に繋

がっているわけで、ここから頤和園に遊覧船を出してはという話も持ち上がっています。

六十年近く前に、わたしがこの近くに引っ越してきたときには、手入れをする人もおらず、川岸はかなり荒れ果てていました。柳の並木も雑然としており、傾いて枝を川面に浸し、夏には水遊びする子供たちの絶好の飛び込み台になっているものもありました。ここ数年、この一帯に小さな公園が生まれ、柳もきちんと並び、遊歩道やあずま屋、花壇などが造られましたが、わたしは、あの昔の風景が懐かしくて忘れられません。

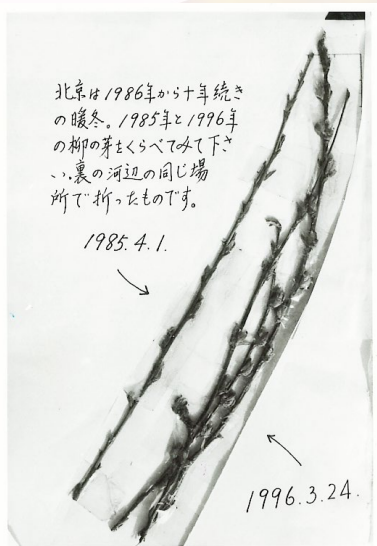
長い冬のあいだ厚い氷に閉ざされていた川の流れも、ゆっくりと動き出し、冷たい流れが温かな流れに変わっていくのに合わせて、畔(ほとり)の柳も動きを見せ始め

わせて、畔(ほとり)の柳も動きを見せ始めます。国語学者の金田一春彦氏は、木の芽について「芽ぐむ」(中に籠もって芽がふくらむ)、「芽ばる」(その芽が出そうになる)、「芽さす」(芽がちよっと出る)、「芽ぶく」(遠くの柳の芽が出そろ)……と書いていますが、なんとデリケートな日本人の季節感、なんと豊かな季節を詠む日本語のボキャブラリーかと感心し、しばらくわたしの川辺の柳観察のバロメーターとなっていました。

そんな、川の畔にある柳の観察が最高潮に達したのは、わたしが五十代に入ったばかりの一九八〇年代だったように記憶しています。その証拠といえそうな手作りの資料が手もとに残っていました。日本語部の薛移さんに写真にしてもらったので、ご覧になってください。北京にも地球温暖化の影響が差したかと驚いたのを覚えています。

わが庭の春

わが庭といっても、それは三十年近くも住みなれたマンションの庭のこと。六、七百平米ほど、「一年四季」緑があり、「一年三季」花のあるこのこぢんまりとした庭に、わたしは強い愛着を持っています。



※1 わたしは在日華僑二世、子供のころよく「春よ来い」という日本の歌を唄っていました。「♪は一るよこい♪は一やくこい」というメロディーで始まるこの曲。老人になった今でも、春が近づくと知らず知らずのうちに口(くち)遊(あそ)びでいます。

※2 胡同とは、北京の街の東西南北を縦横に走る横丁のこと。北京の庶民の生活を語る上で、胡同は不可欠な存在です。



春を迎える儀仗隊—迎春花

この庭に春の到来を最初に告げるのは、三月の上旬に開花する迎春花(オウバイ)です。庭を挟んで建つ南の棟と北の棟とのあいだを、垣根のように七・八十メートルほど一列に植えられており、花を開くと黄色の正装で整列して捧げ銃をしている儀仗隊のようです。その奏でる歓迎のテーマに迎えられ、庭のもろもろの春の花が開き始めるのです。迎春花と色も姿も似ていて妹分に数えられる連翹(レンギョウ)も、二週間ほど後れてマンションの門の近くで花を開きます。連翹は枝を蔓のように長く伸ばし、花は迎春花と同じ黄色、花弁は迎春花の六つより少なく四つ。このことに気が付いたのは、ここに引っ越してきてしばらく経ってからのことです。それ以前は、迎春花と連翹の区別を知らず、どちらも「迎春花」と呼んでいたのです。

この庭の春の花の王様は、なんといっても木蓮でしょう。庭の西に白木蓮(ハクモクレン)二本と紫木蓮(シモクレン)三本を組みあわせた一角があります。白木蓮の方の背がいくらか高く、三月中旬に花を開きます。それを追うように一、二週間ほどして紫木蓮も花を開きます。白と紫が同時に満開となる二週間ほどはまさに絶景で、夜に雨が降ったり、風が吹いたりすると絶景が台無しになってしまったのではと心配する二週間でもあります。姉貴分の白木蓮が傍らの妹分の紫木蓮をひたむきに引立てているように感じられ、毎年のことながら「白」という色彩に秘められた力に心を打たれます。



迎春花に続いて花を開く連翹



■李順然(り・じゅんぜん)

中国国際放送局日本語部に50年勤務したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覧」。



■薛移(せつ・い)

日本語部でリスナーとの交流・連絡を担当。この道一筋三十数年。趣味は旅行、北京漫步。

■新語で知る中国事情

キーワードチャイナ

■謝東

gǎnjué shēntǐ bèi tāokōng

感觉身体被掏空

体が空っぽになったようだ

「感觉」は、ここでは感覚ではなく「感じる」。「身体」は「体」。「掏空」は「出し尽くす」、「空っぽになる」。「被」と言う文字は、「させられる」という気持ちを表現し、「被掏空」で「出し尽くされる」つまり「感觉身体被掏空」で「体が空っぽにさせられた感じ」つまり、元気を吸い尽くされたように感じることを表す。

流行のきっかけは、上海のある室内合唱団が歌った曲のタイトル。歌詞は「18日間も化粧を落とさずに」などやや誇張した表現で、仕事や勉強で忙しい毎日を過ごしたり、残業が一般化し忙しくて「体がからっぽになったようだ」と都会に生きる若者たちの現状を描いている。



ào jiāo

傲娇

ツンデレ

傲娇

特定の人間関係において敵対的な態度、傲慢＝（ツンツン）と過度に好意的な態度、愛嬌＝（デレデレ）の2つの性質をあわせ持つ様子、またはそうした人物を指す。

しかし、この言葉がよく使われるようになり、使われる範囲が広がったり、意味そのものも変わってきている。猫のまなざしを「傲娇」と言ったりする場合はツンデレというよりも、傲慢、上から目線というようなニュアンスで使う。

最近では、傲娇の「傲」に方にスポットを当てて使われる場合が多い。

[例文]

她永远都是一副傲娇小公举的样子。

彼女はいつまでもツンデレのお姫様のようだ。

春茶抢先上市，价格有点傲娇。

春茶が先を争って市場に並び、値段は少しお高めだ。

傲娇

lūqǐ xiùzi jiāyóu gān
撻起袖子加油干

腕まくりをして頑張ろう

「撻」はかく、しごく、たくし上げる。「撻起袖子」で袖を捲り上げる動作のこと。「加油」は頑張る。「干」はやる。「撻起袖子加油干」で張り切って頑張ろう!という意味。

習近平国家主席の2017年新年あいさつの中に登場したフレーズ。あいさつの中のいくつかのフレーズは、すぐにインターネットやソーシャルメディアで紹介された。特に、新しい年に職場で頑張る姿を撮った写真にはこの「撻起袖子加油干」とコメントしてアップする人が多かった。とてもやる気を誘うフレーズなので、仕事でも家事でもやる気満々で何かをする時、これを使う。



撻起袖子
加油干

xiǎo mùbiāo

小目标

小さな目標

中国の大富豪、不動産王と呼ばれる王健林氏が言った言葉。

あるテレビ番組で、若者の世界一の富豪になるという夢について、「世界一の富豪になりたいという目標は間違っていない。しかし、まず、達成可能な小さな目標を立てたほうがよい。例えば、1億円を儲けるとか。」とコメントした。以来、「最好先定一个能达到的小目标，比方说我先挣它一个亿（まず達成可能な小さな目標を立てたほうがよい。例えば、一億円儲けるとか）」という言葉がネット上で広まった。

「小目标」が流行ったのは、1億円儲けることは、すでに大きな目標なのに、王氏がそれを小さな目標と言ったから。若者たちは、この「小目标」をとんでもない夢に置き換えて、冗談や自嘲として楽しんでいる。



小目标

小目标



■謝東
(しゃ・とう)

1992年入局。中国語講座関連の番組「キーワードチャイナ」や「文法ノート」などを担当。言葉は生きものという考えのもと、教えるというよりも、リスナーの皆さんと一緒に勉強していく気持ちで日々努力している。

北京市出身。1992年北京師範大学日本語学部卒業。2004年～2005年慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所客員研究員。

イチオシ! 中国映画 中国音楽



■関亦氷(みん・いひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。

北京出身。北京外国語大学日本語学科卒。



西遊・伏妖篇 (Journey to the West: Conquering the Demons)

公開日:2017年1月28日

監督:徐克(ツイ・ハーク)

主演:呉亦凡(クリス・ウー)

林更新(ケニー・リン)

姚晨(ヤオ・チェン)

2017年の旧正月を盛り上げたのは、『西遊・伏妖篇』。これは日本での公開も果たした『西遊記〜はじまりのはじまり〜』の続編に当たる作品です。監督は前作の周星馳(チャウ・シンチー)から徐克(ツイ・ハーク)にバトンタッチし、周星馳はプロデューサーを務めています。主演は、アイドルグループEXOの元メンバーで、俳優としていま旬の呉亦凡(クリス・ウー)や、徐克(ツイ・ハーク)御用達の俳優とも言われる林更新(ケニー・リン)をはじめ、姚晨(ヤオ・チェン)、林允(リン・ユン)、包貝爾(バオ・ベイアル)ら話題性満点のキャストを結集しています。

2013年に公開された前作『西遊記〜はじまりのはじまり〜』は、中国大陸部で興行収入12億4600万元(約205億5900万円)を記録して当時の年間ランキングで1位の座に輝いただけに、この続編への期待も膨らんでいます。今作の内容は前作に続くもので、沙悟浄、猪八戒、孫悟空を弟子にした三蔵法師たちが、さらなる不思議な旅に出かけ、共に成長していく物語となっています。

合約男女 (Love Contractually)

公開日:2017年2月14日

監督:劉国楠(リウ・グオナン)

主演:鄭秀文(サミー・チェン)

張孝全(ジョセフ・チャン)

今年イチオシのバレンタイン映画は鄭秀文(サミー・チェン)と張孝全(ジョセフ・チャン)がW主演するラブコメディ『合約男女』。監督の劉国楠(リウ・グオナン)は、数多くの張芸謀(チャン・イーモウ)作品で助監督を務めたほか、キアヌ・リーブスを主演に迎えた短編映画『極速無間』が国際的に注目されるなどの実績を持っていますが、長編映画に挑むのはこれが初めてです。

恋愛に絶望しながらも、子供を生みたいと考える保険会社の女性CEOが精子ドナーを探すために、運転手の募集と見せかけた面接を実施するところから物語が始まります。最終的に選ばれたのはある配達員の男性ですが、一緒に仕事をしているうちに、二人の間に何か芽生え始めます。本作は中国の深圳のほかに、フランスのパリでもロケが行われ、モダンでロマンチックな作品に仕上がっています。主題歌「理智與感情」は主演の鄭秀文(サミー・チェン)が歌っています。





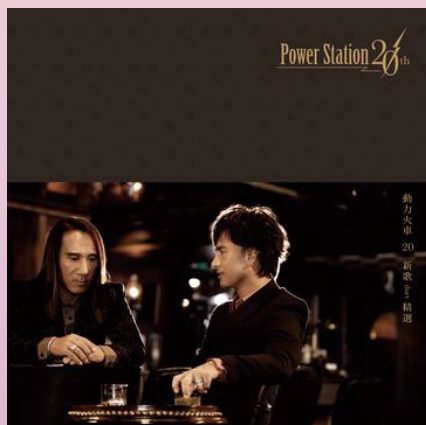
還是想念 (Still Missing)

家家(ジャージャー)

発売日: 2016年12月30日

中華圏で「ソウルの歌姫」と称される女性シンガー、家家(ジャージャー)が3年ぶりとなる3枚目のスタジオアルバムをリリース!今作では、前作『為你寂寞唱歌』でプロデューサーを務めた五月天(メイデイ)の瑪莎(マサ)と再タッグを実現。ほかに、シンガーソングライターの韋礼安(ウィリアム・ウェイ)やHUSHも楽曲を提供しています。

クリスマスの時期に先行リリースされたシングル「愛人的自我修養(恋愛の自己修業)」や迫力あるソウルフルな歌声が堪能できる「看透(シースルー)」、ノスタルジックなメロディーが印象的なタイトルチューン「還是想念(Still Missing)」を含む全12曲を収録。



20 新歌duet精選

動力火車

(パワー・ステーション)

発売日: 2016年12月9日

2016年でデビュー20周年を迎えた動力火車(パワー・ステーション)は、尤秋興と顏志琳の2人で結成された台湾の音楽ユニット。中華圏では珍しいデュオとして成長してきた彼らの20周年記念盤は「2=ダブル」を強く印象付けるCD2枚セットで、新曲10曲を収録した「跟自己合唱(My Solo Duet)」ディスクと、名曲16曲を収録したベスト盤ともいえる「全場大合唱(All My Chorus)」ディスクからなっています。先行シングル「跟自己合唱(My Solo Duet)」は、タイトルに彼らの20年を意識させる「デュエット」の言葉が入れられており、ファンにとって元気付けられる一曲になっています。



00:00

郁可唯(イーサ・ユー)

発売日: 2016年12月27日

中国レコード業界の老舗「滾石唱片(ロックレコード)」から、郁可唯(イーサ・ユー)のニューアルバムが発売されました。郁可唯は1983年の四川省生まれ。2009年に、湖南衛星テレビのオーディション番組「快樂女声」で4位を獲得しました。優勝は果たせませんでした。透明感のある歌声が中華圏のレコード会社大手「ロックレコード」に絶賛され、正式に契約することになった経緯を持ちます。

今作は、前作から2年半ぶりとなる渾身作で、アルバムタイトルの「00:00」という時間表記には「人生を振り出しに戻して再スタートを切る」という意味が込められているそうです。大陸や台湾から陳子鴻、陳建騏、鄭楠、陳迪など最強のクリエイター陣がバックアップしており、アルバムのイチオシ曲「倒流」は台湾ドラマ『浮士德的微笑』の挿入歌に起用されています。

日本人スタッフの つぶやき 在中日本人の生活日記

■星 和明

中国の新自転車時代 ～シェア自転車生活始まる～

北京は地下鉄、バスが発達していて、料金も安くとても交通の便がいいです。しかし、場所によっては最寄駅から目的地までやや遠いときもあります。「帯に短し襷に長し」のように「徒歩に遠し車に近し」という距離です。そんな「あとちょっと」を解決してくれるのがシェア自転車です。



駅前に並ぶシェア自転車

シェア自転車は自転車を共有するサービスで、北京をはじめ中国全土でここ1年ほどの間に急速に台数が増え、街で見かけない日はないほどになっています。代表的なものは、摩拜单车(Mobike/モバイク)やofo共享单车(オフオ)です。Mobikeはオレンジ色、ofoは黄色でどちらも鮮やかな車体です。



左からofo、Mobike

北京にはもともと自転車のレンタルサービスはありましたが、今このシェア自転車の利用者が日に日に増えています。その理由は、「駐輪場を必要としない」、「料金が格安」、「スマホ一つで利用可能」だということです。

決められた固定の駐輪所に戻す必要がないため、自分の使いたいところまで利用できます。また、料金もとても格安で、Mobikeは30分0.5元(約8円)、ofoは1時間1元(約16円)という驚きの価格。そして、利用拡大の最大の理由は、全てがスマホで完結できることです。

スマホだけで利用可能ということが、今の中国を表しています。中国の都市部には、スマホの利用者が驚くほど多いです。地下鉄、バス、カフェ、飲食店、公園な

ど、どこに行っても老若男女問わず使っています。中国では、スマホは微信(WeChat)を用いる連絡ツールとしてはもちろんのこと、生活の全てに密着する役目を果たしていると言っても過言ではありません。電子マネーを利用した飲食店の支払い、スーパーの買い物、タクシーの支払い、出前の注文、チケットの手配、ネットショッピング、映画の予約、割り勘などなど、枚挙に暇がなく、財布を持たずにスマホ一つで生活のほとんどができてしまうほどです。

そんな身近なスマホを最大限に利用しているのがシェア自転車のシステムなのです。

使い方はとても簡単です。Mobikeやofoのアプリをダウンロードして、登録します。アプリ上で個人情報を入力し、デポジットを支払って、料金をチャージします。

外国人でも利用可能で、Mobikeの場合は上記に加えて本人証明としてパスポート情報が必要になります。登録が完了すれば、すぐに使うことができます。

アプリを開くと、GPS情報から自分の周辺にある自転車が表示されます。



アプリで自転車位置が一目瞭然

自転車にもGPSが搭載されているので、一目で正確に位置を確認することができます。そして、自転車についているQRコードをカメラで読み取ります。これで自転車のロックを解除することができます。



スマホでロック解除

目的地に着いたら、鍵をかけます。そうすると、事前にチャージしていた自分のアカウントから料金が自動で支払われます。利用の流れを確認すると、スマホで自転車のQRコードを読み取る⇒乗る⇒鍵をかける、これだけです。

現在は主にMobikeやofoをよく見かけますが、新規参入している業者が増えていて、シェア自転車の総台数は数百万台、利用者は1900万人近くに上ります。

手軽に利用できるのも、天気がいいときにちょっとサイクリング、ちょっと買い物というときにも便利です。また、中国は車道に沿って自転車道が整備されているので、非常に走りやすいことも手軽さの一因にあります。

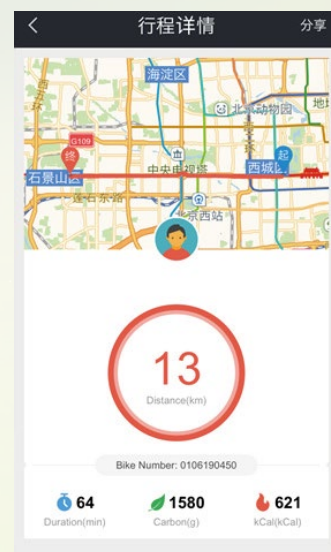


整備された自転車専用道

ある日の私の乗車記録です。気持ちよく走っていたら、一時間近く乗っていました。GPS機能を使って、走行時間や距離を確認することができます。

自分の乗った記録をSNS上でシェアすることもできるので、まさにスマホの利点を存分に使っているサービスだと言えます。

ひと昔前の中国と言えば、街中を大量の自転車が走っているイメージでした。今になって再び、スマホを利用した新たな自転車時代の波が中国に広がっています。



アプリで乗車記録を管理



スマホで手軽に街乗り



■星 和明(ほし かずあき)

2015年12月入局。主な担当番組は「ハイウェイ北京」木曜日、「快乐学唱中文歌」など。そのほか、ニュース校閲、アナウンス、映像番組出演、日本語発音指導なども担当。

中国に降り立った初日から今でも、毎日楽しく北京生活を満喫中！北海道出身。青山学院大学文学部日本語学科卒業。元青森放送アナウンサー。

松竹大歌舞伎 10年ぶりの北京公演

～客席からは屋号の掛け声も～



「恋飛脚大和往来 封印切」©松竹株式会社

中日国交正常化45周年記念「松竹大歌舞伎北京公演」が、3月18日から20まで、北京天橋芸術センターの劇場で行われました。初日は午後と夜に2回公演があり、いずれも満席でした。中村鴈治郎さん、中村芝翫さん、片岡孝太郎さん、市川門之助さんらの熱演に観客たちは熱い拍手を送り、時には笑い声も沸き起こりました。



開演前の様子、国際交流基金安藤裕康 理事長があいさつ
©松竹株式会社

会場の北京天橋芸術センターは、2015年に落成したばかりの施設です。今回使用されている900人収容の中ホールには、歌舞伎公演のために特別に花道も作られました。主演の一人、中村鴈治郎さんは公演に先立つ記者会見で、「大変良い施設で、日本と変わらない状態で公演できる」と満足げな表情を見せていました。演目は「義経千本桜」、「恋飛脚大和往来 封印切」、「藤娘」の3本構成で、それぞれ歌舞伎の様式美、ドラマ性、女形の舞踊を伝えることに趣旨を置くという

主催側の工夫が凝らされています。会場では、中国語音声ガイドの受信機が配布され、字幕が無い代わりに中国語解説を聞きながら観劇することができました。



初演後に取材に応える中村鴈治郎さん

初演終了後、中村鴈治郎さんはCRIの取材に対し、「国内公演に比べ、多少、拍手の上がるどころが違うと感じたが、会場からは『成駒家』の掛け声も聞こえ、とても嬉しかった。屋号の掛け声も歌舞伎の一部なので、それも含めて中国の皆さんに味わっていただけた公演になったと思う」と微笑んでいました。



初ステージの鑑賞に集まった中日両国の関係者
©松竹株式会社

初演の日は、一時帰国中の程永華駐日大使夫妻、中国外務省の孔鉉佑次官補、中国人民対外友好協会の戸思社副会

長、日本の萩生田光一官房副長官、中曽根弘文自民党歌舞伎振興議員連盟会長らを始め、両国の政界、文化界の関係者も数多く訪れました。

歌舞伎鑑賞が初めてだという京劇役者の陳張霞さんは、「幕が上がるとともに、舞台の華やかさに圧倒された。セット、道具から役者の演技まで、すべての部分を洗練さが貫いていた。3つの演目はそれぞれ趣が異なり、飽きさせずに堪能させてもらった。中でも、『封印切』の細やかな心理描写が大変見ごたえがあり、色々勉強になった」と感想を述べました。



「藤娘」©松竹株式会社



「義経千本桜 鳥居前」©松竹株式会社

中国では数少ない女形で、坂東玉三郎と昆曲『牡丹亭』で共演したことがある董飛さんは「片岡孝太郎さんのしぐさや踊りの美しさに目を奪われた。また、中国で言う『90後』（1990年代生まれ）世代の中村孝太郎さんは『封印切』では、父親の鴈治郎さんと恋人役で出演。心の激動を表現する難役だったが、ベテランに劣らない演技に拍手喝采を送りたい」と話しました。また、歌舞伎をよく知る中国人として「女形の衣装や独特な声の出し方を観客が受け入れるかどうか、少し心配だった。しかし、その心配は無用だったと分かり、とても嬉しかった」と、喜びに目を光らせていました。

松竹大歌舞伎は中日国交正常化前の1955年に初めての訪中公演をして以来、これまでに1979年、2004年、2007年

にも中国公演を行ってきました。10年ぶりとなる今回は、松竹株式会社の大谷信義会長が自ら約100人の公演団を率いて訪問しています。3日間で計5回の公演ですが、ソーシャルメディアでの宣伝効果もあり、チケットは発売開始からわずか4日ほどで完売したということです。（取材：王小燕）



■王小燕
(おう・しょうえん)

1999年入局。

日本語部では火曜日の番組を担当。毎週ネットで更新している「CRIインタビュー」では、中日両国の交流に関わる各界の方たちにじっくりお話を伺います。

安徽省出身。北方工业大学日本語専攻卒、北京外国語大学日本学研究センター修了。

「中日交流カフェ」ラジオが繋ぐ交流の輪

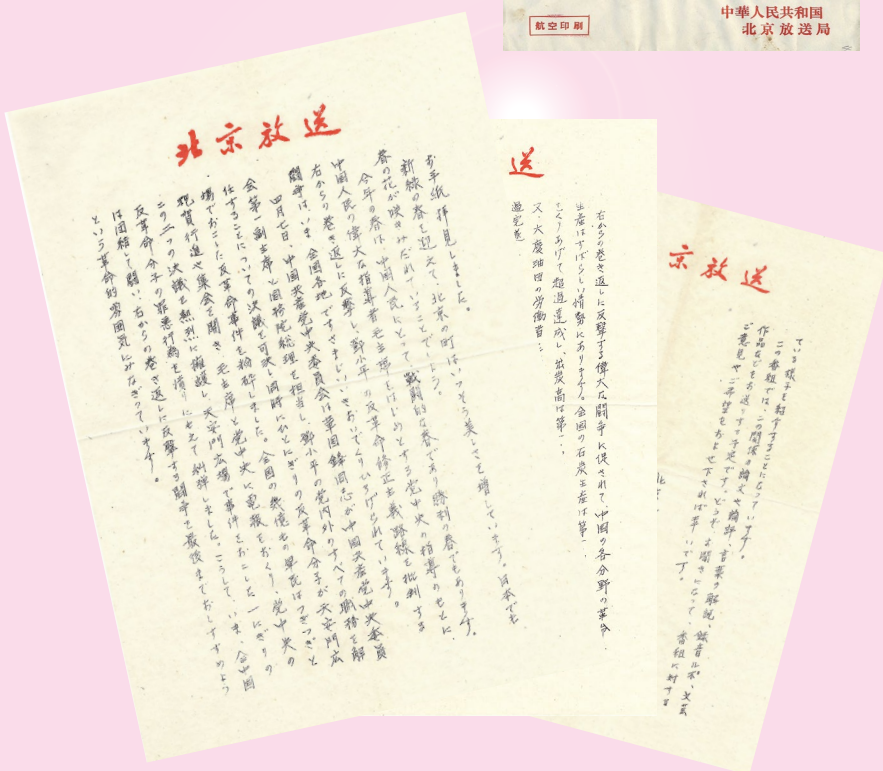
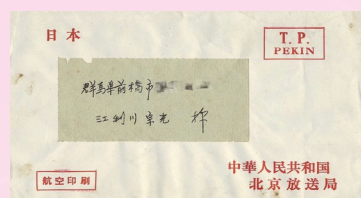


長らく「中日交流カフェ」をはじめ様々な番組で活躍した高橋恵子アナが、この春CRIを退職します。折りしもCRIは去年75周年を迎え、中日交流カフェには様々な思い出が集まりました。今回はCRIとリスナーとの繋がりを、高橋アナをご紹介します。

私たち日本語部は、ニュース、中国語講座の他、硬軟織り交ぜた様々な番組を放送しています(番組表参照)。昔も今もリスナーの皆さんから受信報告や番組の感想が北京まで届けられ、1通1通に目を通して、お便り組のスタッフが返事を送っています。リスナーからのお便りは私たちにとって宝物ですし、私たちからの返信を宝物のように40年近く保管してくださる方がいます。

現在、北京での駐在生活が5年目になる江利川宗光さん。中学生の頃(1970年代)に短波ラジオ等で海外の放送を聴くのが流行っていました。いわゆるBCLブームです。江利川さんは当時外国に憧れ、海外放送を聴きながら異国の地に思いを馳せていたと言います。いくつかの海外放送の中に「北京放送(現在のCRI)」もありました。受信報告を出す航空便で返事が届きます。今でこそ日本と中国

は飛行機に乗れば数時間、いつでもどこでもインターネットなどを通じて相手国の様子を知ることができますが、当時は違います。外国＝北京から届く返信を開封することは、江利川少年にとって異国へのドアを開けるような感じだったのかも知れません。そんな思いで北京放送からのお便りを大切に保管してくれました。



※1970年代当時のポストカード →



時は流れて2012年、江利川さんは北京に駐在することになりました。縁あってCRIの番組に出演することになり少年時代に北京放送局からお便りをもらったことを思い出して、実家から探し出し私たちにを見せてくれました。写真を見て解るようにとても綺麗に保存されています。現在の日本語部のスタッフはほとんどが入局40年未満ですから、1970年代のお便りが手書きのガリ版印刷だったことや当時の社会情勢を反映した内容などなど、何から何まで新鮮です。

最近江利川さんのように40年ぶり30年ぶりにまた、CRIの日本語放送を聴き始めましたというお便りも届いています。

北 京 放 送

放送時間: あさ 6:30—7:00 よる 6:30—0:30

周 波 数: 冬 春 1040 KHz (中波)

6955 KHz 7480 KHz (短波)

夏 秋 1040 KHz (中波)

7480 KHz 9965 KHz (短波)

北京放送をおききになってのご意見、ご感想をお寄せください。
お手紙は日本語でおかきになってください。

絵:太湖の朝(中国画) 宋文治作

曜日	日	月	火	水	木	金	土
6:30	あ	さ	き	の	他		
7:00	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの
7:30	音楽	友好の広場	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽
8:00	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と	社会主義
8:30	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
9:00	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
9:30	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
10:00	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
10:30	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
11:00	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
11:30	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
0:00	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と
0:30	中国の歌と	社会主義	新中国の	おたよりの	音楽	友好の広場	中国の歌と

※当時の番組表

埼玉県 松村秀一さん

私が北京放送を聞き始めたのは1960年です。2時間以上に渡る革命歌劇「東方江」の特別放送などは今でも鮮烈に思い出されます。

埼玉県 小笠原広行さん

貴局の日本語放送と中学2年生の時に会い、高校生になって初めて受信報告書を送ってペリカードを頂いた後、年明けに立派なカレンダーが届き、家族と一緒に大変驚いた思い出があります。この感激で、中国をととても身近に感じるようになりました。

宮城県 白石晋一さん

高校1年生の冬、初めて聞いた海外の放送は北京放送でした。その時のペリカードには受信日が1956年2月5日で、1020キロサイクルと書いてあります。

真空管式のラジオで夕方聞いた記憶がありますが、とても感激しました。もう60年前になるのですね。

東京都 小野崇夫さん

貴局を初めて拝聴したのは1976年と記憶しています。短波放送を聴けるラジオがなく、中波放送での受信でした。子ども心に、躍動感あふれる『これから発展していく国』との印象を放送から強く受けました。

現在はインターネットや通信技術の発達で、放送も一方的に電波を送るのではなく、双方向型のものも増えています。毎週、皆さんからのお便りを紹介していると実は、私たちの放送はずっと以前から双方向だったんだと思います。マイクの向こうにいるリスナーに語り掛け、リスナーからお便りが届く。それを番組で紹介したり、返信をする。まさに「中日交流カフェ」なんだと。そして、お便りは私たちとリスナーを繋ぐだけでなく、過去と今を繋ぐものでもあると実感。私は2011年5月から2017年3月まで、このお便り紹介の番組「中日交流カフェ」を担当してきました。リスナーの方とお便りを通して触れ合える番組に携われたことに感謝します。6年間ありがとうございました。4月からは王洋と梅田謙のコンビでお届けしますので引き続き、よろしくお願いします。これからはリスナーの一人として、この交流の輪に加わりたいと思います。(高橋恵子)

曜日	日	月	火	水	木	金	土
7:00	前日の番組の再放送①						
9:00	***放送休止***						
19:00	ニュース						
19:10	歌で中国語を学ぶ	文法ノート	日本で実践中国語	キーワードチャイナ	文法ノート	日本で実践中国語	キーワードチャイナ
19:20	週末特集(日曜篇)	ライフ・マガジン	CRIインタビュー	中日交流カフェ	文化・マガジン	中国の旅DX	週末特集(土曜篇)
21:00	当日の番組の再放送						
23:00	前日の番組の再放送②						
1:00	***放送休止***						

※現在の番組表

番組はCRI公式サイトからもお聴きいただけます。

リスナーからの お便り

非常感謝
您的来信!

「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい!

E-Mail: riyubusns@126.com

郵便(日本): 〒152-8691

目黒郵便局 私書箱78号 宛

郵便(中国): 100040

中国国際放送局日本語部 宛

番組の感想

■番組名: 国交正常化45年の歩み—あの日、その時—
■岐阜県 渡辺優さん

中日共同声明前後の外交にまつわる秘話を関係者の証言を交えて伝えていただき、ありがとうございます。周恩来元首相の人物の大きさに感動しました。

■番組名: CRIインタビュー
■愛知県 山内伸司さん

いつも様々な方が出演されていて楽しく聞いています。最近、日本の芸能人やお笑い芸人の方も中国語に興味があるという記事をよく見かけます。

日本のタレントのCRIへの出演もぜひ、実現してもらいたいです。

■番組名: 中日交流カフェ ほか
■愛知県名古屋市 水島悦貴さん

初めまして。せっかく北京放送が聴けるようになったのに高橋恵子様が番組を卒業されるのは残念です。高橋様、お疲れ様でした。また、お声をお聴き出来る日が来ますことを願っています。

■番組名: 旅のレポート
■神奈川県横浜市 近藤真平さん

番組で紹介された四川省は、日本人にとっても四川料理などで馴染みのある地域ですが、古代の水利施設である「都江堰」や「二王廟」など、見どころもたくさんあるところのようですね。高橋さんの旅のレポートも今回が最終回だそうで少し寂しい思いがします。

■番組名: 中日交流カフェ ほか
■東京都 小野崇夫さん

高橋さんお疲れ様でした。是非、お元気で活躍されることをお祈りいたします。時々、お声を聴かせていただけるとうれしい限りです。梅田さん、「日本で実践!中国語」ではお声は聴いていましたが、中日交流カフェでもよろしく願いいたします。

■番組名: 中日交流カフェ
■東京都 細谷正夫さん

高橋恵子さんがご担当される最後の放送を聴きました。長い間、本当にお疲れ様でした。

王洋さんには「ウメケン」さんをリードして、これからも、楽しい番組を作ってくださいますよう、よろしく願いいたします。

編者後記

今年は中日国交正常化45周年この記念すべき年です。幣局では特別企画「国交正常化45年の歩み—あの日、その時—」を毎週土曜日に放送しています。まるでタイムスリップしたかのように、70年代から現在までの中日友好のストーリーが目の前に展開する、そんな番組です。私自身、知らなかった話ばかりで、新鮮に楽しんでいきます。皆さんもぜひお聴きください。

中日友好といえば、3月25日にCRIの桜が満開を迎えました。この桜は1996年に長野県のリスナーから寄贈された友誼の桜です。桜といえば日本のシンボルでもあります。今号では中国に咲く桜を特集でお届けしました。桜が結ぶ両国の絆を感じ取って頂ければ幸いです。

さて、中国の古い諺に「一年の計は春にあり」というものがあります。本誌『かけはし』もこの春、新たなスタートを切るつもりで、より良い誌面作りに努めてまいります。応援のほど、よろしくお願いいたします。(趙雲莎)

CRIの公式アプリが配信開始！

中国国際放送局(CRI)は2017年3月31日より、新スマートフォン用アプリの配信を開始しました。「ChinaNews」「ChinaRadio」「ChinaTV」の3つのアプリで、中国をより身近に感じてもらうため、日本語をはじめ多言語でニュースや音声・動画番組をリアルタイムに発信します。

1941年12月に開局し、現在65の言語で世界に向けて発信する中国国際放送局。その新たな情報プラットフォームを、ぜひご活用ください！



ChinaNews (ニュースアプリ)

国内外の最新ニュースを統合して、写真、文字、音声、動画、生放送などを通し、多言語でお伝えします。



ChinaTV (映像アプリ)

CRIの映像のほか、国内外の協力メディアの映像などを結集させて、国際ニュースの映像レポートや大型イベントの映像生中継を多言語で発信します。



ChinaRadio (音声アプリ)

CRIのニュース、音楽、エンターテインメント、中国語講座など、様々なラジオ番組を多言語で提供します。



ChinaNews



ChinaRadio



ChinaTV

* 全てのアプリが日本語に対応! 初回起動時に簡単に設定できます。



■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



CRI日语频道



CRI日语部



@CRIJpn



CRI日本語



YouTubeアカウント
CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか